

国際情勢と日本の外交のあり方

—緊張深める世界で、日本の役割を考える—

ロシアによるウクライナ侵攻から1年以上も経過しましたが、いまだに、戦争が終わる気配はありません。ウクライナを戦場にして、NATOとロシアの全面戦争に発展しかねない現状です。ロシアは核の使用までのめかしていますし、NATOも対抗する武器の援助をつづけてウクライナを支援しています。どちらからも妥協して、戦争を終了させる状況にはなく、長期化の様相を見せています。また、トランプ政権下で悪化した米中関係の対立構造は、バイデン政権でも継続しており、米中間の中長期な対立・競争が懸念されています。

今回の講演会はウクライナ情勢、また東アジアにおける台湾有事など、世界が戦争の時代に突入したともいわれる中、平和の時代を

とりもどすには、世界がどのような対応をなすべきかが問われており、今回は国際情勢と外交をテーマにして講演会を開催します。講師にお招きした水口章先生は、中東問題の専門家としてメディアにたびたび出演して解説をしていますが、今回のウクライナ、台湾有事にどのようなお考えか講演をお願いしました。戦争と外交は古くて新しい課題ですが、日本はどのような対応をすべきかをお話いただきます。先生は現在、千葉市の敬愛大学で教鞭をとっています。

緊張が深まる世界の中で、日本が果たすべき役割の方向性と指針を示していただけるものと考えます。関係する皆様のご参加をお待ちしています。

[講演会資料代 500円 会員無料]

★お申込は自治研センターへ 電話043-225-0020

FAX 043-225-0021

☆5月26日(金)までにお申し込み下さい

自治研センター 講演会のご案内

- 日時：2023年6月10日(土)
15時～17時
- 会場：千葉県教育会館本館 203 会議室
千葉市中央区中央 4-13-10

＜講演 講師紹介＞

水口 章 氏

(みずぐち あきら)



＜現職＞ 敬愛大学国際学部 教授
＜略歴＞ 法政大学大学院公共政策研究科博士後期課程単位取得退学。中東調査会上席研究員などを経て、現職。法務省難民審査参与員、一般財団法人自治体国際化協会の地域国際化推進アドバイザーなどを務める。
湾岸戦争、イラク戦争など、中東地域関連問題についてマスメディアで解説してきた。
専門分野は、公共政策学（対外政策論）、地域研究（中東）。著書に『イラクという国』『中東を理解する——社会空間論的アプローチ』など。

- 主催：千葉県地方自治研究センター
- 共催：自治労千葉県本部
- 後援：連 合 千 葉